

会 報

No.45 (1993年6月)

目 次

◆新会長あいさつ	1
◆前会長あいさつ	2
◆日本分子生物学会第8期評議員選挙結果	3
◆新旧合同評議員会議事録要旨	3
◆新役員名簿	4
◆日本分子生物学会国際(欧文)誌について	5
◆第16回(1993年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2)	5
◆学会費(年度会費)納入について	14
◆日本分子生物学会への入会申込みの手順	14
◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について	14
◆第20回(平成5年度)日産学術研究助成の募集について	16
◆第1回 日産科学賞候補者推薦について	16
◆山田科学振興財団1994年度研究援助候補の推薦について	18
◆各種研究助成などへの本学会推薦について	19
◆各種シンポジウムのお知らせ	20
○千里ライフサイエンス特別セミナー	
「Gene Expression in Medicine (遺伝子の発現と医学への貢献)」	20
○国際植物分子生物学シンポジウムのお知らせ	21
○第13回 日本植物組織培養学会大会のご案内	22
○日本結晶学会講習会「蛋白質結晶構造解析入門」のお知らせ	23
○第44回 タンパク質構造討論会のお知らせ	24
○第2回 日本バイオイメージング学会学術集会予告	25
○第7回 国際マウスゲノムコンファレンス -MGC93-のご案内	25
◆日本学術会議だより	26

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆新会長あいさつ

三浦謹一郎氏の後を次いで第6代目の会長を引き受けることになりました。私は60年代をアメリカで過ごしたため本学会設立の核となった初期の分子遺伝学グループの活動には参加していませんが、70年代初めの学会設立準備には中年研究者の一人として協力することが出来ましたので、やはり古典的分子遺伝学者の最後の一人に属するのでしょうか。歴代の会長さんの意志を引き継いで、真に世代の交代が起こるための中継ぎとしての務めを果たしたいと思います。

10年前金沢で年会を開いたとき、会場の一角に茶室を設け、着物姿のお嬢さんによる接待を参加者の方に賞味していただいた長閑な風景は隔世の感を覚えるほど学会は大きくなりました。分子生物学は生物学の重要な方法としてその基礎と応用のあらゆる分野に確実に浸透しています。一般社会による認知も飛躍的に進み、片仮名のバイオサイエンスが分子生物学の代名詞であるかのように理解されているようです。学界においても日本学術会議の中に分子生物学研究連絡委員会が設置され、科学研究費の細目に分子生物の枠が確保されました。社会的な啓蒙と、研究費の獲得という学会設立当初の目的は達成され、我が国の分子生物学は自律的な成長が可能な状態にまで成長したように見えます。

しかし我が国の分子生物学は世界のレベルと比較して、真に自律的な状態に達しているのでしょうか。遺伝子クローニングやPCRのような分子生物学が生産した技術は広く浸透してはいるが、生命現象の機構を分子間の相互作用によって論理的に解明するという分子生物学の方法がしっかりと根を下ろし、それを新しい学問分野の発展の原動力として機能させ得る能力のある研究者集団とそれを支える研究体制が育っているか、と問われると自信を持って答えることが出来ません。日本の分子生物学のレベルを考えると、70年代の後半、遺伝子を基盤とした新しい生物学の波が起こったとき、欧米に比べて少なくとも数年の遅れを取ってしまったことを反省材料にしなければなりません。また最近のゲノム研究についても萌芽的分野としての受け止め方が分子生物学者の間にあまり強く感じられないのが心配です。高校の教科書や、大学の教養課程での生物学の講義にどれだけの関心を持ってきたかも問われなければならないでしょう。

富沢純一氏が、Molecular and Cellular Mechanisms (仮称)と名付けた国際誌の日本人の手による刊行を企画されたのは本物の分子生物学を我が国に根付かせることを意図されていると思います。本学会は財政的、精神的支援を約束していますが、これが多くの研究者の支持を得て、我が国における科学活動の新しい軸の一つになるようにしたいものです。一方学際領域研究の推進を計っている日本学術会議からは、分子生物学に関連した教育研究体制に関する意見が本学会に求められています。それは中学、高校の理科教育から、学部、学科および研究所のありかたにわたる広範囲のものです。次代を担う若い研究者、教育者の力を借りて、実行可能な提言をまとめたいと思っています。

今年はDNAのDouble Helixの発見から40年に当たります。1960年代我が国には岡崎令治、富沢純一らによって独創的な研究が展開されると共にファージコースのような教育活動によって若い研究者を育てる土壌が培われました。そしてそれが日本分子生物学会の設立に結び付きました。最近では、当時に比べて質的に匹敵し量的にははるかに多くの優れた研究が行われ、毎年の年会を活気付けています。しかしながらこれらの力量を集めて、若い研究者を育み、本物の分子生物学を他分野に広げようとする熱意は会員数の増加と共に冷めていったように思います。学会活動の原点は若い研究者の養成と関連分野の研究者との交流にあることを再確認して、ここまで成長し、成果を収めてきた分子生物学会をより魅力的な学会にすべく努力したいと思っています。会員の方々の御協力をお願い致します。

吉川 寛

◆前会長あいさつ

この春に2年間の会長任期を了え、新会長の吉川 寛さんに会務を引継ぎました。任期中の会員の皆様とスタッフの方々の御協力に深く感謝申し上げます。

懸案であった分子生物学の英文雑誌を本会の支援のもとに発刊することも、編集主幹を予定されている富沢純一博士の御努力と本会と出版社のリエゾン役などをされている大石道夫博士の御尽力により、作業が進行していることに感謝したく存じます。

昨今は分子生物学が生物学の基礎として重要であることを世間一般も認めるようになってきましたが、将来のことを考えますと、研究活動ばかりでなく、教育問題も含めて社会活動に本学会が果たすべき役割はますます重要になると存じます。新会長が新しい視点に立って会の運営に当たられることを期待いたしますと同時に、会員の皆様の引続いての御協力をお願い申し上げます。

三浦 謹一郎

◆日本分子生物学会第8期評議員選挙結果

投票締切：1993年3月1日

開票日：1993年3月5日

開票場所：東京大学医科学研究所

開票者：選挙管理委員（榎 佳之，橋本 雄之，小林 一三）

投票者数：453名（1名あたり10票）

有効票数：4304票

無効票数：63票

白票数：163票

上位20名の当選者は下記の通りです。（50音順）

石浜 明， 岩渕 雅樹， 小川 智子， 大島 靖美， 岡崎 恒子
近藤 寿人， 志村 令郎， 杉浦 昌弘， 鈴木 義昭， 関口 睦夫
高浪 満， 谷口 維紹， 豊島久真男， 富沢 純一， 本庶 佑
松原 謙一， 柳田 充弘， 山本 正幸， 由良 隆， 吉川 寛

◆新旧合同評議員会議事録要旨

日時：1993年4月9日（金） 15：30～17：30

場所：東京・八重洲ターミナルホテル

出席者：大石 道夫， 小関 治男， 榎 佳之， 三浦謹一郎（前会長）

水野 重樹， 村松 正実（以上前評議員）

石浜 明， 岡崎 恒子， 小川 智子， 志村 令郎， 杉浦 昌弘

鈴木 義昭， 関口 睦夫， 富沢 純一， 豊島久真男， 本庶 佑

柳田 充弘， 山本 正幸， 由良 隆， 吉川 寛（以上新評議員）

渡辺 公綱（前庶務幹事）

議事：

(1) 会長選挙

規約にのっとり評議員の互選により，吉川 寛氏を第8期（1993年4月1日から1995年3月31日まで）会長として選出した。

(2) 選考委員選挙

評議員の互選により次の5氏を選考委員として選出した。

岩渕 雅樹， 岡崎 恒子， 関口 睦夫， 谷口 維紹， 柳田 充弘

(3) 会計監査の選出

投票により，小川 英行，品川日出夫の両氏を会計監査として選出した。

(4) 幹事，その他

庶務，会計，編集，集会，各幹事の人選について会長に一任した。

報告、協議事項など：

- (1) 三浦前会長より日本学術会議で、学術の学際化、国際化を計る一環として常置委員会を設置することになり、分子生物学研連から委員1名分の席を抛出することになったとの報告があった。
- (2) これに関連し、いくつかの研連を選び、教育体制、産官学の連携などについて現状と問題点を調査し、国としてどのような施策がとれるかについて日本学術会議より意見を求められているとの報告をもとに大学、大学院の研究、教育体制についてフリーディスカッションがあった。
- (3) 富沢、大石両評議員より欧文誌の発刊についての現状報告があった。

◆新役員名簿

新評議員（50音順）

石浜 明（国立遺伝研）	高浪 満（かずさDNA研）
岩渕 雅樹（京大・理）	谷口 維紹（阪大・細胞生体工学セ）
小川 智子（阪大・理）	豊島久真男（阪大・微研）
大島 靖美（九大・理）	富沢 純一（国立遺伝研）
岡崎 恒子（名大・理）	本庶 佑（京大・医）
近藤 寿人（阪大・細胞生体工学セ）	柳田 充弘（京大・理）
志村 令郎（京大・理）	山本 正幸（東大・理）
杉浦 昌弘（名大・遺伝子実験施設）	由良 隆（HSP研究所）
鈴木 義昭（国立基生研）	吉川 寛（奈良先端科学技術大学院大学）
関口 睦夫（九大・医）	

各幹事

庶務幹事	小笠原直毅（奈良先端科学技術大学院大学）
会計幹事	釣本 敏樹（阪大・細胞生体工学セ）
集会幹事	松原 謙一（阪大・細胞生体工学セ）
編集幹事	大石 道夫（東大・分子細胞生物学研）

将来計画委員会

石浜 明（委員長）、大石 道夫（編集幹事として参加）
松原 謙一（集会幹事として参加）、三浦謹一郎（学習院大）、山本 正幸

会計監査

小川 英行（阪大・理）、品川日出夫（阪大・微研）

○なお、松原 謙一氏は集会幹事に就任のため、評議員ではなくなります。

◆日本分子生物学会国際（欧文）誌について

先の会報（No.44, 1993年2月）でお知らせしましたように日本分子生物学会の物心両面のsupportの下に富沢純一博士を編集長として国際誌（Molecular and Cellular Mechanisms：仮題）が来年7月より発刊される予定です。本誌の発刊に関して、去る4月9日東京で行われた日本分子生物学会評議員会において質疑が行われ承認されました。近く発行社であるBlackwell社、日本分子生物学会（会長 吉川 寛）、富沢純一編集長の三者で契約が締結される予定です。

なお、契約としては基本的には(1)日本分子生物学会は原稿の編集（およびそれに関する財政的負担）に責任を負い(2)Blackwell社は印刷、発行に関して責任を負うこととなります。

（大石 道夫）

◆第16回（1993年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その2）

第16回年会を1993年12月16日（木）～19日（日）の4日間、千葉県幕張メッセおよび同国際会議場で開催します。詳細については後日（11月中旬の予定）お送りするプログラムでお知らせしますが、年会スケジュールのあらまは下記の通りです。一般発表はすべてポスターとします。シンポジウムは一般発表とは独立に行います。なお、特別講演は行わず、海外より10名程度の研究者を招待しシンポジウムで発表していただきます。

一 般 発 表

すでに会報No.44（1993年2月）でお知らせしましたように、一般発表はすべてポスターといたします。後記の「発表の申し込み」の要領に従いお申し込み下さい。ポスター展示時間は、終日（9時より18時まで、ただし最終日は17時まで）の予定です。発表者は、原則的に指定の時間帯（9時～10時30分、もしくは10時30分～12時のいずれかを演題採択通知書で指定）にはポスターの前に立ち、口頭説明をし、質問・討論に応じて下さい。指定外の時間でも質問・討論されても結構です。ポスター掲示のスペースは、高さ150cm、幅150cmを予定しています。なお、終了時までにはポスターを取りはずして下さい。

シンポジウム

シンポジウムは会員諸氏からの意見および分子生物学の流れを参考に後記の約24のトピックスについて行います。特に報告したい成果がありましたら各シンポジウムのオーガナイザーの方に申し込んで下さい。原則として採択、非採択はオーガナイザーの方の判断に一任してあります。

1つのシンポジウムは約4～5時間をかけて行い、基本形態としてoverview, 10～

15題の演題発表、discussionとなっています。外国からの招待者はいずれ公表されま
す。

また、このことは別により specific なテーマでシンポジウム（特定領域シンポジウ
ム）を開催されたい方がありましたらその計画を後記の要領で御連絡下さい。数件の開
催が可能と思われます。

日 程 表

	9:00	12:00	12:30	17:00	17:30	18:00	20:00
12月16日(木)	ポスター説明			ポスター展示			
	バイオテクノロジー・セミナー			シンポジウム			
12月17日(金)	ポスター説明			ポスター展示			
	バイオテクノロジー・セミナー			シンポジウム			
12月18日(土)	ポスター説明			ポスター展示			
	バイオテクノロジー・セミナー			シンポジウム	総会	パーティー	
12月19日(日)	ポスター説明			ポスター展示			
	バイオテクノロジー・セミナー			シンポジウム			

発表の申し込み

- (1) ポスター発表の代表者は、本年度会費既納の本学会会員に限り、1人1題とします。
なお、他のポスター発表の連名者、シンポジウムの発表者・連名者となることは差
し支えありません。
- (2) 発表申込み締切日 1993年8月31日(火) 必着
- (3) 申込書送付先

〒565 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第16回 日本分子生物学会年会 係
Tel : (06) 873-2301 Fax : (06) 873-2300

- (4) ポスター発表の申込みは、綴じ込みの用紙（発表申込書、プログラム編集用・人名索引編集用カード、発表要旨受取書、発表演題採否通知書）に必要事項を記入・印字し、要旨のコピー3部（B5判）を添え、簡易書留便で年会係までお送り下さい。なお、プログラム編集などについて希望があれば、申込書の通信欄にお書き下さい。ただし、希望に沿えないこともあります。また、別の手紙を添付または同封しないで下さい。
- (5) ポスター発表の代表者の本年度会費納入を確認するために、申込書の指定の欄に、会費払込みの際に郵便局が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。
- なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センターより会費の請求書が送付されますのでご注意ください。会費未納の場合には、発表申込を受理できませんのでご注意ください。
- (6) ポスター発表演題受取書は、申込用紙到着後に代表発表者の本年度会費納入を確認の上、返送されます。ポスター発表の日時についての通知は、会員の方々に送付されるプログラムをもって代えます。ポスター発表演題は申込みの形式および内容に関して不備、あるいは不相当と考えられる場合には、不採用のこともありますのでご承知おき下さい。
- (7) 発表申込用紙など記入上の注意
- 用紙は切り離さずに郵送して下さい。
 - *印の項には記入しないで下さい。
 - 要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサまたはタイプライターで直接印書するか、または印書したものをていねいに糊付けして下さい。代表者の前には○印をつけて下さい。所属は略称を用いて下さい。また、鮮明なコピー3部（B5判）を添付して下さい。
 - プログラム編集用カードに従って、プログラムを編集・印刷します。「演題」「氏名・所属」を要旨に記載のものとまったく同じに記入して下さい。なお、同一研究グループで複数の関連演題を発表する場合に、ポスターの掲示の順序などに希望があれば、その旨を申込書の通信欄に記入して下さい。
 - 人名索引編集用カードには、演者および連名の方全てについて1枠に1名ずつ記入して下さい。なお、外国人の方は、カタカナでの表記を避け、アルファベットでファミリーネーム（カンマ）、ファーストネームの順で記入して下さい。
 - 発表申込書には、「演題」「氏名・所属」と共に、連絡者1名の氏名、住所、電話番号、Fax番号を記入して下さい。
 - ポスター発表の内容について、分類表から希望するものを選び、番号とアルファベットで記入して下さい（例：Ⅰ－b－1、Ⅲ－aなど）。昨年度に引き続き研究

内容中心の分類を採用しています。また「遺伝子の分子構造」については、構造そのものに興味がある場合のみ「遺伝子」の項を選ぶこととし、その他の場合にはできる限りその内容に沿った項目を選ぶようにして下さい。

- h. 受取書のハガキには「演題」、発表演題採否通知書のハガキには「演題」と「発表希望分類」を記入して下さい。また、裏面には宛名を記入し、41円切手を貼って下さい。切手が貼られていない場合には返送しません。

参加申込および参加費

- (1) 年会参加費は、前納の場合は一般会員5,000円、学生会員4,000円です。当日受付の場合は、それぞれ6,000円、5,000円、非会員7,000円となりますのでご注意ください。
参加費には、講演要旨集1部の代金が含まれています。なお、要旨集のみ希望の方には、会員2,000円（但し、会員1人につき1部のみ）、非会員4,000円でお頒けします。
- (2) 本年度は、パーティを12月18日（土）18時より開催する予定です。パーティ参加費は5,000円です。奮ってご参加下さい。
- (3) 年会参加費、要旨集代金、パーティ参加費の払込みには、同封の振替用紙をご利用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第16回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。なお、整理の都合上、申込者1人につき1枚の振替用紙をご使用下さい。

口座番号 大阪2-22357

加入者名 (財)日本学会事務センター大阪事務所

(学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意ください。)

- (4) 11月12日までに参加費を払い込まれた方には、年会前に講演要旨集を郵送します。11月13日以降に払い込まれた場合には、年会会場にて要旨集をお渡しすることになりますのでご注意ください。
- (5) 参加費払込みの領収書は、原則としてお送りしませんのでご了承下さい。念の為、郵便局の領収書を保管しておいて下さい。
- (6) 当日申し込まれる方は、会場受付で参加費をお支払い下さい。
- (7) 年会期間中の宿泊、JR券・航空券の手配については (株)三慶 係：高橋 (Tel (03) 3987-2665) よりご案内します。
- (8) 第16回年会に関する問い合わせ先
学会センター関西 内
第16回 日本分子生物学会年会 係
Tel：(06) 873-2301
Fax：(06) 873-2300

なお、第16回年会準備委員会の構成は下記の通りです。

委員長 準備委員会	大石 道夫	東京大学分子細胞生物学研究所
	新井 賢一	東京大学医科学研究所
	井川 洋二	東京医科歯科大学医学部
	今本 文男	京都薬科大学生命薬学研究所
	内宮 博文	東京大学分子細胞生物学研究所
	大木 操	国立がんセンター研究所
	大坪 栄一	東京大学分子細胞生物学研究所
	鈴木 紘一	東京大学分子細胞生物学研究所
	高橋 秀夫	東京大学分子細胞生物学研究所
	谷口 克	千葉大学医学部
	中村 祐輔	癌研究会癌研究所
	花岡 文雄	理化学研究所細胞生理学
	水島 昭二	東京薬科大学
	村松 正實	埼玉医科大学
	山本 正幸	東京大学理学部
	矢原 一郎	東京都臨床医学総合研究所
横山 茂之	東京大学理学部	
プログラム委員	鮎沢 大	東京大学分子細胞生物学研究所
	石浦 彰一	東京大学分子細胞生物学研究所
	河村富士夫	東京大学分子細胞生物学研究所
	木山 亮一	東京大学分子細胞生物学研究所
	米田 好文	東京大学遺伝子実験施設
	田矢 洋一	国立がんセンター研究所
	都筑 幹夫	東京大学分子細胞生物学研究所
	中村 義一	東京大学医科学研究所
	堀越 正美	東京大学分子細胞生物学研究所
	古市 貞一	東京大学医科学研究所
	真木 寿治	東京大学分子細胞生物学研究所
	宮武昌一郎	千葉大学医学部附属高次機能制御研究センター

特定領域シンポジウムについて

今年の年会では会員諸氏からの意見を参考に別項の様なシンポジウムを行うことに決定しました。これらのシンポジウムは分子生物学会の典型的な分野を cover しているものです。これらのシンポジウムに加えて更に数件のより狭い特定領域についてのシンポジウム（年会シンポジウムでの cover されていないものや特に最近進歩の著しいもの等）について希望がありましたらオーガナイザー（連絡先）、シンポジウム名、内容および理由、希望開催の時間を7月15日までに年会委員長宛てにお送り下さい。なお、特定領域シンポジウムはオーガナイザーがすべて企画、実行していただき、本年会では会場の提供のみを行います。

〒113 東京都文京区弥生 1 - 1 - 1

東京大学分子細胞生物学研究所

分子情報分野

大石道夫

Tel : (03) 3812-2111 内線 7834

Fax : (03) 3818-9437

ポスター発表分類表 (Classification of poster sessions)

(I) 分子構造 (Molecular structure)

- | | |
|---------------------------------|--|
| (a) 遺伝子 (Genes) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) ゲノム解析 (Genome analysis) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 蛋白質 (構造, 機能) (Proteins) | (3) ウイルス, フェージ
(Viruses and phage) |
| (d) 核酸 (物理, 化学) (Nucleic acids) | (4) 染色体外遺伝子
(Extrachromosomal genetic material) |
| (e) 分子集合 (Molecular assembly) | |
| (f) 分子進化 (Molecular evolution) | |
| (g) その他 (Others) | |

(II) 分子機能 (Molecular function)

- | | |
|---|--|
| (a) 複製 (DNA, RNA, 染色体) (Replication) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 変異, 修復 (Mutation and repair) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 組換え (Recombination) | (3) ウイルス, フェージ
(Viruses and phage) |
| (d) 転写 (Transcription) | (4) 染色体外遺伝子
(Extrachromosomal genetic material) |
| (e) 転写制御因子 (Transcription factors) | |
| (f) RNAのプロセッシング (RNA processing) | |
| (g) 翻訳 (Translation) | |
| (h) 蛋白質のプロセッシングと局在化 (Protein processing and localization) | |
| (i) 細胞内分子移動 (Intracellular molecular transfer) | |
| (j) その他 (Others) | |

(III) 細胞の構造 (Cellular structure)

- (a) 核および核内構造 (染色体, クロマチン, 核小体) (Nuclei and nuclear structure)
- (b) 生体膜, エネルギー (Membranes and bioenergetics)
- (c) 細胞骨格, 運動 (Cell skeleton and movement)
- (d) 細胞質オルガネラ (ミトコンドリア, クロロプラスなど) (Organelle)
- (e) その他 (Others)

(IV) 細胞の機能 (Cellular function)

- (a) 情報伝達 (Information transfer)
 - (1) 成長因子, 分化因子, ホルモン, 受容体
(Growth and differentiation factors, hormones and their receptors)
 - (2) その他の生理活性物質 (Other biologically active substances)

- (3) 細胞内情報伝達 (Intracellular information transfer)
- (b) 細胞増殖 (Cell proliferation)
 - (1) 細胞周期, 細胞分裂 (Cell cycle and cell division)
 - (2) 癌化 (ウイルスも含む) および癌遺伝子 (Oncogenesis and oncogenes)
 - (3) その他 (Others)

(V) 高次生命現象 (Fundamental biological phenomena)

- (a) 細胞間認識 (Cell - cell interaction and recognition)
- (b) 胚および胚発生 (Embryo and embryogenesis)
- (c) 発生および分化一般 (Development and differentiation)
- (d) 免疫系 (Immune systems)
- (e) 細胞死 (Apoptosis)
- (f) 老化 (Aging)
- (g) 遺伝病 (Genetic diseases)
- (h) その他 (Others)

(VI) 脳, 神経系 (Neurobiology)

(VII) 分子生物学の方法論, 技術 (Molecular biological techniques and bioengineering)

- (a) DNA・RNA工学 (DNA・RNA engineering)
- (b) 蛋白質工学 (Protein engineering)
- (c) 細胞工学 (Cell engineering)
- (d) 発生工学 (Developmental engineering)
- (e) 病因解析および診断 (Diagnosis)
- (f) その他 (Others)

第16回 日本分子生物学会年会シンポジウム

シンポジウム名（順不同）	オーガナイザー
DNA複製の分子メカニズム	吉川 寛, 花岡 文雄
転写因子と転写メカニズム	堀越 正美, 石井 俊輔
シグナル伝達の分子メカニズム	松本 邦弘, 西田 栄介
免疫系の分子生物学	谷口 克, 渡辺 武
細胞の増殖と癌の分子生物学	山本 正幸, 山本 雅
細胞周期と細胞分裂の研究の現状	柳田 充弘, 西本 毅治
老化と細胞死	長田 重一, 鮎沢 大
RNAの構造と機能に関する諸問題	横山 茂之, 大島 靖美
ストレス応答の分子メカニズム	由良 隆, 永田 和宏
分子進化のメカニズム	大沢 省三, 岡田 典弘, 古沢 満
組み換えとゲノムの再編成	小川 英行 (他1名)
生理活性物質の作用メカニズム	新井 賢一, 清水 孝雄
植物の分子生物学	岡田 清孝, 内宮 博文
細胞間認識とその生物学的意義	竹市 雅俊, 藤沢 肇
蛋白質・核酸の機能デザイン	大塚 栄子, 森川 耿右
新しい分子生物学のテクノロジー	関谷 剛男 (他1名)
生物反応におけるDNAの構造変化	菊池 韶彦, 真木 寿治
ゲノム解析の現状と将来	小原 雄治, 大木 操
分子生物学よりみた遺伝病	辻 省次, 中村 祐輔
ウイルスと宿主の相互作用	古田 光昭, 半田 宏
発生と分化メカニズム (I)	黒岩 厚, 浅島 誠
(初期発生・ホメオボックスなど)	
発生と分化のメカニズム (II)	帯刀 益夫, 鍋島 陽一
(分化における遺伝子発現など)	
脳・神経系の分子生物学 (I)	中西 重忠 (他1名)
(神経機能を中心として)	
脳・神経系の分子生物学 (II)	御子柴克彦 (他1名)
(神経系の分化・形態形成など)	

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 平成5年度分および未納分の学会費を3月中旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

正会員学会費 2,500円

（但し、在学証明書を提出したときは2,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申し込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申し込み下さい。所定の書式をお送りいたします。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

（財）日本学会事務センター・会員業務

日本分子生物学会 係

Tel : (03) 5814-5810 Fax : (03) 5814-5825

◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について

学術賞および研究助成金の本学会よりの推薦は本学会選考委員の意見にしたがって行いますが、そのために必要な資料部数および期限は次の通りです。

1. 資料：①本申請に必要な申請資料（オリジナル+募集要項に記載されている部数のコピー）および論文
②本学会の5名の選考委員用に上記申請資料のコピー5部（論文は不要）
2. 期限：本申請の概ね1か月前までに〒630-01 奈良県生駒市高山町8916-5, 奈良先端科学技術大学院大学, 日本分子生物学会 庶務幹事 小笠原直毅（Tel 07437-2-5131）まで郵送して下さい。
3. 葉書：申込受付確認のため返信用葉書に宛名を書いて同封して下さい。

注意：資料②を同封せずに応募される人がかなりあります。場合によっては受け付けできませんので、ご注意下さい。

現在までに本会宛に推薦依頼のあった各種賞・助成などの要項と締切日をご案内いたします。ご留意の上、適宜お申し込み下さい。なお、本会への郵送は学会推薦の選考のため、この締切りの1か月前（厳守）に締切りますのでご注意下さい。

国際生物学賞	国際生物学賞委員会 (03) 3263-1721 102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル, 日本学術振興会内	1 件	平成 5 年 6 月30日	賞状, 賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ, 世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者 (本年度, 授賞分野は生態学)。
井上 学術賞	(財)井上科学振興財団 (03) 3477-2738 150 渋谷区猿楽町11-20	5 件以内 (1 件)	平成 5 年 9 月20日	1 件メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者 (但し締切日現在満50歳未満)。
日産学術研究助成	(財)日産科学振興財団 (03) 3543-5597 104 中央区銀座6-17-2	①~10件 ②~15件 (各 2 件) ③~35件 (全件)	平成 5 年 8 月31日	共同研究 1 件 ①1500万円 ② 300万円 個人研究 ③ 200万円 以下	自然科学分野の基礎的な研究に従事し 1~3 年間に要する研究を行おうとする研究者および研究グループで, その研究成果が学術の進歩, 発展に貢献するところが大きいと思われる者。社会の著しい変化にともない, 自然科学にとどまらず, 人文科学, 社会科学の分野も含む。
日産科学賞	同 上	2 件 (1 件)	平成 5 年 8 月31日	1 件 賞状メダル 500万円	自然科学分野で, 学術研究上重要な発見をした者, 新しい研究分野を開拓した者など学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50歳未満の研究者。
東レ科学技術賞	(財)東レ科学振興会 (0473) 50-6103 279 千葉県浦安市美浜 1-8-1 東レビル	2 件前後 (2 件)	平成 5 年 10 月 8 日	1 件 賞状, 金メダル 500万円	学術上の業績顕著な者, 学術上重要な発見をした者, 重要な発明により効果が大い者, 技術上の重要問題を解決し貢献が大い者。
東レ科学技術研究助成	同 上	総 額 1億3000万円 10件程度 (2 件)	平成 5 年 10 月 8 日	特に定めず 最大3,000 万円まで	理・工学分野で独創的, 萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者, またはそのグループ。
・ブレインサイエンス財団研究助成 ・塚原 伸 晃 記 念 賞	(財)ブレインサイエンス振興財団 (03) 3273-2565 104 中央区八重洲2-6-20	・ 8 件 (1 件) ・ 1 件	平成 5 年 11 月30日	・ 1 件 100万円 ・ 1 件 200万円	ブレインサイエンス研究分野 (脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域) において独創的で国際的評価に値する研究者。 なるべく若い者, 単独または共同研究も可。
・海外派遣研究助成 ・海外研究者招聘助成	同 上	・総額 150万円 ・総額 100万円	平成 6 年 1 月11日	・ 1 件 40万円まで ・ 1 件 40万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため, 国際学会, シンポジウム等への参加, あるいは研究者の派遣を助成。 同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
山田科学振興財団研究援助	(財)山田科学振興財団 (06) 757-3311 544 大阪市生野区巽西 1-8-1	総 額 500万円 10件程度 (2 件)	平成 6 年 3 月31日	1 件 300万~ 700万円	自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人またはグループに対し助成。10件内外。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 (03) 3985-3500 171 豊島区高田3-25-3	2 件以内 (1 件)	平成 5 年 9 月10日	金 牌 1,000万円	生命科学の栄養学, 薬学, 基礎および臨床医学, 社会医学で顕著な業績をあげ, 引き続き活躍中の研究者。

申請をご希望の方は念のため詳細を関係先へご照会下さい。() 内の件数は学会からの推薦枠。

◆第20回（平成5年度）日産学術研究助成の募集について

研究助成課題

1. 人間と機器との係わりに関する研究（重点助成課題）
2. 資源・エネルギーに関する研究
3. 自然環境および都市環境に関する研究
4. 新しい機能材料の研究
5. 生命現象に関する研究

研究助成要約

研究の種類別	一般研究助成		奨励研究助成
	(A)	(B)	
研究の性格	研究が長期にわたる学際的グループ研究 (共同研究に限る)	大きな発展の可能性を内蔵する課題の前段階的研究あるいは短期間の研究 (共同研究に限る)	若手研究者による萌芽的・独創的研究 (個人研究)
1件当りの助成金額	1,500万円限度	300万円限度	200万円限度
助成金の総額 (採択件数)	約11,500万円 (10件程度)	約4,000万円 (15件程度)	約5,500万円 (35件程度)
助成金の支払期間	・平成6年度 (6/4～7/3) を助成第1年度とする。 ・助成期間2～3年	平成6年度に交付 助成期間1年	同左 助成期間1年

◆第1回 日産科学賞候補者推薦について

日産科学賞候補者推薦要領

1. 候補者対象

自然科学分野（人文・社会科学分野との複合領域を含む）で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50歳未満（平成6年3月末時点）の公的研究機関に所属する研究者とします。

- a) 学術研究上重要な発見をした
- b) 新しい研究分野を開拓した

2. 推薦者

貴学協会の代表者

3. 推薦依頼件数

各学協会共 1件

4. 賞の内容

正賞……賞状, メダル

副賞……研究奨励金 500万円 (受賞者の研究のための助成金)

5. 推薦手続

所定の用紙に必要事項を記入し, 当財団宛 1部送付下さい。

6. 推薦締切

平成5年8月31日必着

7. 審査選考

当財団選考委員会にて行います。

8. 褒賞人員

原則として毎年2名

9. その他

- ・賞の贈呈は平成6年3月を予定しております。
- ・同一研究の受賞に複数の研究者の推薦を必要とする場合でも, 扱いは1件とする。

締 切 日

学・協会から当財団への推薦締切日は, 第20回日産学術研究助成, 第1回日産科学賞共に平成5年8月31日(火)。

資料請求・問い合わせ先

財団法人 日産科学振興財団研究助成 係
〒104 東京都中央区銀座6-17-2 木挽館
Tel : (03) 3543-5597 (代表)
Fax : (03) 3543-5598

◆山田科学振興財団1994年度研究援助候補の推薦について

援助の趣旨および内容

1. 本財団は、自然科学の基礎的研究に対して研究費の援助をいたします。実用指向研究は援助の対象としません。
2. 援助額は1件当たり300～700万円、総額5,000万円、援助総件数は10件程度ですが、学会からの推薦および本財団関係者からの個人推薦の中から選考いたします。
3. 援助金を給与に充てることは出来ませんが、他の用途は自由です。
4. 援助金の使用期間は、贈呈した年度およびその次の年度の計2年間とします。

推薦方法

- イ. 推薦者：本財団が依頼した学協会の代表者
- ロ. 推薦件数：1推薦者ごとに2件以内
- ハ. 推薦手続：推薦者は、以下の書類を整え、ご送付願います。
 1. 所定の推薦書用紙またはその写しに必要事項を記入したもの 4部
 2. 添付書類（研学(94)-5/8ページ参照）

記載上の注意

- イ. 紙面不足のときには、同型同大の別紙で追加して下さい。
- ロ. 代表研究者は、所属のある場合、当核所属の長から本援助の申込をすることについての承諾を得て下さい。

推薦締切期日

本財団に推薦書が到着する締切期日は1994年3月31日です。

選考方法

選考委員会において選考の上、理事会が決定します。

選考結果の通知

1994年7月末迄に推薦者および代表研究者等宛て文書にて通知します。

援助金の贈呈

選考結果の通知後適時銀行振込にて贈呈いたします。

推薦書送付先および連絡先

財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544 大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 大阪 (06) 757-3311 (代表)

研究の成果および会計の報告

援助金の受領者には、後日当財団の連絡に基づき、研究経過、研究成果、会計について報告書の提出および研究交歓会での発表をして頂きます。

付 記

- イ. 援助金の用途を変更する場合には、予め本財団の承諾を得て下さい。
- ロ. 研究成果を文書によって発表される際には、本財団（財団法人 山田科学振興財団、Yamada Science Foundation）の援助による旨を記載し、報文の類にあってはその別刷1部、また著書の類にあってはその1部をご寄贈願います。
- ハ. ご提出頂きました推薦書および添付書類は、お返しいたしません。

研究者各位へ

推薦者の項に対応する学協会は次記のとおりです。学協会により締切期日および募集方法等が異なりますから、代表研究者は応募の際、各学協会にお問合わせ願います。

日本天文学会	日本化学会	日本生理学会	日本生物物理学会
日本物理学会	高分子学会	日本遺伝学会	日本発生生物学会
応用物理学会	日本農芸化学会	日本分子生物学会	日本植物生理学会
日本金属学会	日本薬学会	日本動物学会	日本植物学会
地震学会	日本生化学会	日本細胞生物学会	日本免疫学会
地球電磁気・地球惑星圏学会			

◆各種研究助成などへの本学会推薦について

- 平成4年度（第19回）日産学術研究助成候補者として本学会が推薦した13件のうち、下記1件が採択された。

佐藤 孝雄（徳島大・工）

「一本鎖DNA結合蛋白質（SSB）および基質複合体の高分解能X線解析」

- 1993年度山田科学振興財団研究援助候補者として、本学会選考委員の意見にしたがい下記2件を推薦した。

辻本 賀英（阪大・医）

「個体発生におけるbc1-2の機能の解析」

伊藤 維昭（京大・ウイルス研）

「細胞膜における蛋白質トランスロケーターとアンカリングシステム」

◆各種シンポジウムのお知らせ

○千里ライフサイエンス特別セミナー

「Gene Expression in Medicine (遺伝子の発現と医学への貢献)」

日 時 平成5年6月28日(月) 10:00~17:30

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール
(地下鉄御堂筋線千里中央駅北改札口すぐ)

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団
大阪大学細胞生体工学センター

後 援 Tularik, Inc., USA

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

プログラム (注-公用語: 英語)

1. Activators, TAFs and TBP : Simple Concepts, Complex Structures
Robert Tjian (Univ. of California, Berkeley ; Tularik, Inc., USA)
2. Regulation of A Transcription Factor *efp* by Estrogen Receptor
Masami Muramatsu (Saitama Med. School, Dept. of Biochem.)
3. IRF-1 and IRF-2 ; Regulators of the Interferon System and
Oncogenesis
Tadatsugu Taniguchi (Osaka Univ., Inst. Mol. Cell. Biol.)
4. Models of Immunodeficiency
Laurie H. Glimcher (Harvard Medical School, USA)
5. NFIL-6 in Acute Phase Reaction ; A Model System for Cytokine
Signaling Pathway
Shizuo Akira (Osaka Univ., Inst. Mol. Cell. Biol.)
6. Anatomy of an Enhancer
Steven McKnight (Tularik, Inc., USA)
7. Oncogenic Protein Tax of HTLV-1: A New Clue in Understanding
Regulation of Transcription and Proliferation of Lymphoid Cells
Mitsuaki Yoshida (Tokyo Univ., Inst. Med. Sci.)
8. The Retinoblastoma Protein : its Partners and Relatives
Ed Harlow (MGH Cancer Center, USA)

レセプション (17:30~) : 無料, 申込先着70名

受講料 一般: 3,000円 学生: 1,500円

定 員 300名

参加申込方法 ①氏名②勤務先, 所属, 役職名, 所在地, 〒, TEL FAX番号③レセプション参加有無④振込予定日を明記の上, 葉書またはFAXで下記宛お

申込み下さい。参加費は申込後に大和銀行千里中央支店普通預金No.4601085・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の前にTとご記入下さい。

申込先 財団千里ライフサイエンス振興財団 特別セミナー係 佐藤・堀木
〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル8階
Tel : (06) 873-2001 Fax : (06) 873-2002

○国際植物分子生物学シンポジウムのお知らせ

(財)東洋紡百周年記念バイオテクノロジー研究財団は、来る7月21日(水)、第13回日本植物組織培養学会の開催に合わせて下記の「国際植物分子生物学シンポジウム」を開催いたします。

記

日 時 平成5年7月21日(水) 9:30~15:40

場 所 国立京都国際会館 メインホール

(京都市左京区宝ヶ池 Tel : 075-791-3111)

交 通 地下鉄「北大路」下車、市バス「岩倉実相院前」(北4系統)にて約20分、
「国立京都国際会館前」下車、徒歩3分

参加費 無料

プログラム

テーマ「植物分子生物学の進歩 — 細胞工学と分子生物学の接点」 (用語は英語です)

9:30 Opening Address

Y. Yamada (Kyoto University)

9:40 Signal Transduction Pathway in Plants

N. H. Chua (Rockefeller University)

10:40 Genetic Engineering of Plants

R. A. Schilperroot (Leiden University)

11:40 Break

12:40 Molecular Mechanisms of Proliferation and Differentiation in
Plant Cell Cultures

A. Komamine (Japan Women's University)

13:40 Regulation and Manipulation of Flavonoid Pigment Biosynthesis

J. Mol (Vrije Universiteit)

14:40 Applying Large-Scale Methods to the Small Genome of
Arabidopsis

C. Sommerville (Michigan State University)

15 : 40 Closing Remarks

M. Tabata (Kyoto University)

講演要旨 当日配布いたします。

問合せ先 (財)東洋紡百周年記念バイオテクノロジー研究財団

(東京都中央区日本橋小網町17-9)

Tel : (03) 3660-4890 Fax : (03) 3660-4829

または国際植物分子生物学シンポジウム準備委員会

(京都市左京区北白川 京都大学農学部内)

Tel : (075) 753-6381 Fax : (075) 753-6398

○第13回 日本植物組織培養学会大会のご案内

日時 1993年7月21日(水)~23日(金)

場所 国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池, Tel : (075) 791-3111)

7月21日 国際植物分子生物学シンポジウム(公開:無料)

「植物分子生物学の進歩-細胞工学と分子生物学の接点」

共催 東洋紡100周年記念バイオテクノロジー研究財団

生物系特定産業技術研究推進機構

京都バイオ・サイエンスシンポジア組織委員会

協賛 島津科学技術振興財団

三共生命科学研究振興財団

7月22日, 23日 一般講演

参加費 一般会員 : 6,000円

非会員 : 8,000円

学生会員 : 3,000円

懇親会費 : 8,000円(当日申込みは何れも2,000円アップとなります。)

問い合わせ先

〒606-01 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学部農芸化学科分子細胞育種研究室内

第13回 日本植物組織培養学会大会準備委員会

準備委員長 山田 康之

Tel : (075) 753-6381

Fax : (075) 753-6398

○日本結晶学会講習会「蛋白質結晶構造解析入門」のお知らせ

主 催 日本結晶学会

協 賛 日本化学会，日本薬学会，高分子学会，日本農芸化学会，
日本生化学会，日本生物物理学会，近畿化学協会，
日本分子生物学会，日本蛋白工学会，日本放射光学会，
日本結晶成長学会，日本熱測定学会 ほか予定

会 期 1993年9月21日(火)・22日(水)

会 場 大阪大学蛋白質研究所・蛋白質工学基礎研究センター

講 義 9月21日(火)

9:30~9:45 挨拶 (阪大名誉教授) 角戸正夫
9:45~11:00 蛋白質結晶解析と蛋白質工学 (阪大・蛋白研) 勝部幸輝
11:00~12:00 X線解析の基礎 (阪大・蛋白研) 松浦良樹
13:00~14:00 蛋白質結晶の作成 (阪大・工) 原田繁春
14:00~15:00 蛋白質結晶の回折データ測定 (阪大・蛋白研) 佐藤 衛
15:15~16:15 蛋白質結晶解析の方法 (名大・工) 山根 隆
16:15~17:15 蛋白質立体構造データベースの利用と表示
(阪大・蛋白研) 楠木正巳

17:30~18:30 参加者交流会

演 習 9月22日(水)

9:30~17:00 結晶作成/コンピュータグラフィックス/見学会

募集定員 講義 60名，講義+演習 20名

参加費 (テキスト代，消費税込)

講 義 の み	日本結晶学会会員	10,300円
	協賛学協会会員	20,600円
	非会員	30,900円
講義+演習	日本結晶学会会員	36,050円
	協賛学協会会員	51,500円
	非会員	66,950円
交 流 会		2,000円

申込方法 所定の申込書を下記事務局までご請求下さい。

申 込 先 日本結晶学会事務局

〒113 東京都文京区湯島2-16-13

Tel : (03) 3815-8514 Fax : (03) 3815-8529

○第44回 タンパク質構造討論会のお知らせ

共 催 日本化学会, 日本生化学会, 日本生物物理学会, 日本薬学会,
日本農芸化学会, 日本分子生物学会, 日本蛋白工学会

日 時 平成5年10月5日(火)・6日(水)

会 場 東京都目黒区大橋2-19-5

こまばエミナース

講演申し込み締切 5月29日(土) 必着

1. 講演は断片的な研究発表ではなく、データがよく吟味されていて活発な討論の対象になり得るものに限ります。第66回日本生化学会大会(東京)の直後ですので、同大会へ発表するものと同様の講演の申し込みは御遠慮願います。
2. 講演総数は約25件に限って、討論を十分にしたいと考えております。申し込み多数の場合、採否は世話人にお任せ願います。
3. 採否につきましては、6月中旬頃までに世話人より講演申し込み人に直接御連絡いたします。
4. 講演時間は、討論を含めて30分の予定です。
5. 講演申し込みは、発表者、所属、連絡先(FAXおよび電話番号も併せ記入して下さい)、題目、および要旨(特に討論の対象となる箇所については具体的に記述して下さい。1200字)を、すべてB5判、400字詰横書き原稿用紙に記入して、世話人宛にお送り下さい。

講演要旨原稿締切 8月9日(月)

詳細は採択講演の申込者に直接連絡いたします。

参加費 3,000円(学生1,500円)

要旨集代 2,000円(送料込)

懇親会費 4,000円(学生2,000円)

(いずれも予定)

申し込みおよび連絡先

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部生物化学教室 高橋 健治

Tel : (03) 3812-2111 内線4384

Fax : (03) 5684-2394

○第2回 日本バイオイメーjing学会学術集会 予告

日 時 1993年10月15日(金)・16日(土)

と ころ 国立予防衛生研究所(東京都新宿区戸山1-23-1)

- 主 題
- 1) 生体の動きのリアルタイムでの視覚化
 - 2) 細胞内分子の動的変化, 代謝・エネルギー変換の視覚化
 - 3) 生体分子の物理化学的性質の解析画像
 - 4) 分子のモデリングとドラッグデザイン

以上に関する特別講演と一般講演を行います。

一般講演を広く募集いたしますので, ふるってご応募下さい。

講演申込締切 7月26日(月)

講演要旨締切 9月10日(金)

参加費 (要旨集代含む) 4,000円(学生2,000円)

懇親会 10月15日(金) 6時より開催

講演申込方法 演題, 発表者, 連絡先を明記の上, はがきにて下記へ申し込み下さい。

参加申込方法 氏名, 連絡先明記の上, はがきにて下記へ申し込み下さい。

(席に余裕があれば当日受付も行います。)

申込先・連絡先 〒467 名古屋市瑞穂区田辺通3-1

名古屋市立大学薬学部 中西 守

Tel : (052) 836-3411 Fax : (052) 836-3414

○第7回 国際マウスゲノムコンファレンス — MGC93 — のご案内

日 時 1993年11月7日(日)~11日(木)まで

会 場 浜名湖ロイヤルホテル(静岡県浜名郡雄踏町, JR浜松駅より車で30分)

主 催 第7回 国際マウスゲノムコンファレンス組織委員会(委員長 森脇和郎)

- 主要議題
1. マウス遺伝子マッピング
 2. マウスフィジカルマッピング
 3. cDNA解析プロジェクト
 4. ポジショナルクローニング
 5. ゲノム解析技術の開発
 6. ゲノムデータベースの解析

使用英語 英語

参加費 登録料 20,000円

宿泊費 60,000円(シングル), 45,000円(ツイン) / 1人(4泊10食付)

問い合わせ 〒411 静岡県三島市谷田1, 111 国立遺伝学研究所 細胞遺伝研究部門内
第7回 国際マウスゲノムコンファレンス組織委員会事務局

Tel : (0559) 75-0771 (内線533) Fax : (0559) 75-6240

「アジア学術会議(仮称)」の開催決まる

平成5年3月 日本学術会議広報委員会

「アジア学術会議(仮称)」の開催経費を含む日本学術会議の平成5年度予算が決まりましたので、その概要についてお知らせします。

平成5年度日本学術会議予算

日本学術会議の第15期活動計画の大きな柱である「学術研究の国際貢献の重視」の具体的方策の一環として、「アジア学術会議(仮称)」の開催が、平成5年度予算によって実現することとなりました。その内容は、学術研究が環境問題等の諸課題を克服し、人類の繁栄と世界の平和に寄与するとの認識に立って、本年秋に東京で、我が国と地理的・文化的に関係の深いアジア各国を代表する学術研究者が一堂に会して、各国における学術研究の現状、アジア地域

における連携・協力のあり方などに関し意見を交換する場として開催するものです。我が国を含め10か国程度のアジア諸国から、代表者を招へいする予定です。

その他、平成5年度予算では、国際分担金の25団体に対する単価アップが認められ、国際会議の国内開催費については、アジア社会科学、植物科学、太平洋学術、電波科学、純粋・応用物理学、気象・水分、の6国際会議の開催を予定しています。また、世界各地で開催される学術関係国際会議への代表派遣や二国間交流に必要な経費が計上されております。

平成5年度予算概算決定額表は、下記のとおりであります。

(単位：千円)

事 項	前 年 度 予 算 額 A	平 成 5 年 度 予 算 額 B	比 較 増 △ 減 額 C = B - A	備 考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,042,482	1,095,827	53,345	対前年度比較 105.1%
審 議 関 係 費	248,789	265,525	16,736	○地球圏-生物圏国際協同研究計画 (IGBP)シンポジウム、公開講演会等
国際学術交流関係費	198,514	221,254	22,740	
国際分担金	67,089	74,722	7,633	
国内開催	80,596	73,543	△ 7,053	
代表派遣	44,006	44,006	0	
二国間交流	6,823	6,823	0	
アジア学術会議	—	22,160	22,160	
会員推薦関係費	21,216	19,574	△ 1,642	
一般事務処理費	573,963	589,474	15,511	

日本学術会議第16期会員の推薦について

日本学術会議の会員は、従来、科学者を有権者とする直接選挙によって選出されていましたが、日本学術会議法の一部を改正する法律（昭和58年法律65号）により、第13期（昭和60年7月22日）から、学術研究団体を基盤とする推薦・任命制に改められました。来年7月で、この推薦制度も三期9年を経過することとなります。

この会員選出制度のあらましは、次のとおりです。

- ① 日本学術会議は、一定の要件を備える学術研究団体を、その申請により登録する。
- ② 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、会員の候補者を選定し、及び会員の推薦に当たる推薦人を指名し、それぞれ、日本学術

会議に届け出る。

- ③ 推薦人は、会員推薦管理会がその資格があると認定した会員の候補者のうちから、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を決定し、日本学術会議を経由して内閣総理大臣に推薦する。
- ④ 内閣総理大臣は、上記③の推薦に基づいて、会員を任命する。
- ⑤ 学術研究団体の登録、会員の候補者の資格の認定その他会員の推薦に関する所要の事務は、日本学術会議に置かれる会員推薦管理会が行う。

以上の概要を第16期（平成6年7月—平成9年7月）の会員選出日程によると、次表のようになり、これに従って今後の事務処理が行われる予定になっています。

日本学術会議第16期会員選出手続日程

平成5年	5月31日(月)まで	学術研究団体の登録申請の締切り
	9月上旬	登録審査結果の通知
	不登録通知を受けた日の翌日から20日以内	不登録通知を受けた団体からの異議の申出受付
	9月上旬	関連研究連絡委員会についての意見聴取*
	10月下旬	<団体関係> 異議の申出に対する決定
	11月30日(火)まで	関連研究連絡委員会の指定*
平成6年	12月上旬	会員の候補者の選定及び推薦人の指名の依頼
	1月31日(月)まで	会員の候補者の届出の締切り
	2月21日(月)まで	推薦人（予備者を含む）の届出の締切り
	3月20日(日)まで	会員の候補者の資格の認定等の通知
	3月下旬	推薦人に会議開催等の通知発送
	不認定通知を受けた日の翌日から20日以内	会員の候補者の資格の不認定通知を受けた学術研究団体又は会員の候補者からの異議の申出受付
	4月20日(水)まで	<会員の候補者関係> 異議の申出に対する決定
	5月中旬から6月上旬まで	推薦人会議（会員及び補欠の会員として推薦すべき者を決定）
6月中旬	日本学術会議を経由して内閣総理大臣へ推薦	
7月22日(金)	第16期日本学術会議会員の任命	

注：*は、日本学術会議会長が意見聴取し、指定する。

日学双書の刊行について

日本学術会議主催公開講演会及び公開シンポジウムの記録をもとに編集した、次の日学双書が刊行されました。

- 日学双書第15刊 「文明の選択—都市と農業・農村の共存を目指して—」
定価1,000円（消費税込み、送料240円）
- 日学双書第16刊 「子どもの人権を考える」
定価1,000円（消費税込み、送料240円）
- 日学双書第17刊 「首都機能の一極集中問題」
定価2,000円（消費税込み、送料310円）

（問い合わせ先）

〒106 東京都港区西麻布3-24-20
交通安全教育センター内
（助）日本学術協力財団
☎03-3403-9788

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34
日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を採択

平成5年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月21日から23日まで第116回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び同総会で採択された「学術分野における国際貢献についての基本的提言」等についてお知らせいたします。

日本学術会議第116回総会報告

日本学術会議第116回総会（第15期・第5回）が、4月21日～23日の3日間にわたって開催された。

総会の初日の午前は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

午後からも提案案件に対する質疑応答が行われた後、引き続き各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

総会2日目の午前は、前日提案された2案件及び緊急に提案された1案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「国際対応委員会の改組について(申合せ)」が採択された。これは、学術の国際化の急速な進展に伴い、国際学術団体及び国際学術協力事業への対応の重要性がますます増大してきており、日本学術会議としてもその職務を遂行する上で、学術の国際化に関する状況の迅速かつ的確な把握が不可欠であるという観点から、より広範囲にわたる国際学術情報の収集と、それに基づく適切な対応ができるよう、国際対応組織の充実強化を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」が採択された。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中の重点目標として掲げられており、また、一昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、「学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう」求められ、以来、日本学術会議における重要案件として鋭意審議してきたものである。

提言は、1. 学術分野における国際貢献の意義、2. 学術分野における国際貢献の在り方、3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案という構成内容になっており、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、具体的な諸課題について検討していくこととしている。

最後に、上記の提言に基づき、日本学術会議は、国際貢献のための新しいシステムを構築するための具体的方策を直ちに検討し、その速やかな推進を図るといった内容の「学術分野における国際貢献についての基本的提言に関する附帯決議」が採択された。

また、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」に関する会長談話を22日付けで発表した。

午後からは、現在、常置委員会、特別委員会が審議されている懸案事項について、自由討議が行われた。

総会3日目は、午前は各特別委員会、午後は各常置委員会・国際対応委員会がそれぞれ開催された。

なお、近藤会長が、4月22日に河野内閣官房長官と、また、同27日に宮澤内閣総理大臣とそれぞれ会見し、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を手渡すとともに、同提言について報告した。

学術分野における国際貢献についての基本的提言（抜粋）

（前文略）

1. 学術分野における国際貢献の意義

（本文略）

2. 学術分野における国際貢献の在り方

（本文略。項目のみ）

- (1) 対等・互恵の原則に基づいた国際学術協力の強化
- (2) 国際学術協力の積極的発議等
- (3) 人材育成への協力による国際貢献の推進
- (4) 我が国の学術情報の提供・紹介の促進
- (5) 学術に関する国際団体への対応強化

3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案

前節で述べた我が国の学術分野における国際貢献の在り方を踏まえ、これを推進していくために、以下の事項を提案する。

- (1) 我が国からの情報提供機能等の充実・強化

① 学会の支援・育成

我が国の学会は、高等教育研究機関や産業界の研究発表の発表の場として重要な役割を果たしてきた。また、研究者相互の活発な国際交流等を通じて、情報の提供に努めているところである。しかしながら、ほとんどの学会は、資金の不足から、必要な活動も十分にできない状況にある。

学術分野における国際貢献という観点において、非政府機関（NGO）としての学会の果たす役割は極めて大きく、それらが有する情報提供機能を最大限に発揮できるよう、学会の支援・育成を図る必要がある。

- (2) アジア地域における学術研究に関する連携の強化
我が国と地理的・歴史的・文化的な関係の深いアジア地域の学術の発展に資するため、アジア地域の科学者や学術研究機関の間の学術研究ネットワークを拡充・強化することが必要である。また、将来的には、アジアの学術振興のための国際的な組織の在り方について、関係各国の科学者と協議していく必

平成5年(1993年)度共同主催国際会議

要がある。

(2) 国際学術交流のための支援の充実

① 学術研究機関の整備等

新しい知識の創造と発展は、優れた研究者が集い、切磋琢磨するところから生まれるものであり、研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって、全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ、充実した研究生活が送れるように、学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。

② 来日研究者・留学生への支援の充実

学術分野における国際貢献の第一歩として、各国の人材育成への協力、とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって、内外における日本語教育の充実や、来日研究者・留学生の住居、日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実を早急に図るべきである。

③ 海外派遣研究者への支援の拡充

国際学術交流は、相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって、その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などでもできる人材の当該国への配置など、海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。

(3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築

国際的な学術協力については、我が国においても、既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら、投入されている資金等そのための支援は、質・量ともに、未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも、現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は、必ずしも十分ではなく、我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また、今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力、参加、推進については、これまで以上に、科学者の総意を反映しつつ、総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに、我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには、科学者の力のみならず、政府・産業界の協力、更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し、学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように、国民の理解の下に、諸課題の整理、必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム(例えば「学術協力機構」)を構築するなど、今後真剣に検討を進める必要がある。

終わりに

日本学術会議は、人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から、本提言を取りまとめたものである。

なお、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、内外の科学者を始め、広く関係各方面の意見を聴きながら、具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね6件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

◆第7回太平洋学術中間会議(6月27日～7月3日)

太平洋地域の住民の繁栄と福祉に直接関わる学術上の問題に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として宜野湾市(沖縄コンベンションセンター、沖縄都ホテル、メルパルク沖縄)において開催される。

参加予定人数500人(国外300人、国内200人)参加予定国数29か国。

◆第6回国際気象学大気物理学協会科学会議及び第4回国際水文学協会科学会議合同国際会議(7月11日～23日)

気象学、大気物理学及び陸水・水文学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数1,500人(国外700人、国内800人)、参加予定国数68か国。

◆第15回国際植物科学会議(8月23日～9月3日)

植物科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数4,000人(国外1,500人、国内2,500人)、参加予定国数81か国。

◆第24回国際電波科学連合総会(8月23日～9月3日)

電波科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数1,200人(国外800人、国内400人)、参加予定国数49か国。

◆アジア社会科学研究協議会連盟第10回総会

(9月5日～11日)

アジア・太平洋地域における社会科学の教育、研究、訓練及び普及を促進するため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として川崎市(かながわサイエンスパーク)において開催される。

参加予定人数120人(国外60人、国内60人)、参加予定国数17か国。

◆第21回国際純粋・応用物理学連合総会(9月20日～25日)

物理学を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として奈良市(奈良県新公会堂)において開催される。

参加予定人数300人(国外150人、国内150人)、参加予定国数41か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291(代)

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第45号（1993年6月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所